

造形通信

2023. 7月
NO.62
ひいらぎこども園

暑い毎日が続いています。突然の大雨もありましたが、そろそろ梅雨も明けそうです。この後にやって来るのは、すごい暑さの夏。今年はどれほどの暑さがやってくるのでしょうか。こどもたちは、暑さをものともせず、水遊びや外遊びに没頭しています。そろそろセミ採りも始まりそうです。



あおぞらひろばでは段ボールを敷き詰めたうえで、こどもたちが色を付け始めました。いつの間にか体中が真っ赤に染まっていきました。絵具の感触を楽しみながら、いつの間にか自分自身が一つの作品になっていきました。

ダイナミックな体験 超おもしろい!

～土に触れ、水に触れ、紙に触れ、絵具に触れ～

園庭に敷き詰めた段ボールにローラーで思いっきり絵具を付けていきました。はじめはローラーを使っていたけれど、いつの間にか手や足に絵具がつき、あっという間に体中が絵具だらけ。泥遊びをしているうちに、自分たちが泥まみれになったり、机に思いっきり色水を流し、色の変化に驚いたりするこども達。大量のシュレッターの紙の中に埋もれたり、紙吹雪のように吹き上げたり、体全体でもの冷たさや暖かさ、やわらかさなどを感じていきます。なかなか普段家ではできない活動を周りを気にすることなく、思いっきり堪能する、そんな体験をいっぱいしてほしいです。



いつの間にか体中絵具だらけ! 泥だらけ! でも、ニコリ!



きれいな色水がいっぱい!



机の上で色が混ざってきれい!



段ボールやおひさまひろばの柱にも絵具をべったり!



シュレッターの紙にうもれて!



情報化社会において、見たいものややりたいことを画面を通じて知ることができる今の世の中。知識は豊富になっても、自分の体全体で感じる体験はどれほど出来るのでしょうか。バーチャルな世界ではなく、自分の目で見て、手で触って、体全体で感じ取る体験はとても大切です。特に小さい間にどれだけ実際に体験できるかということは、これからの心の成長に大きく左右してくるはず。体験の大切さは、今ではなくこどもたちが大きくなってからあらわれてくるのかもわかりません。

